

酒類・食品 & News 解説

週刊

令和6年11月1日(金曜日) 第3419号
(昭和42年7月10日第3種郵便物認可)
毎週金曜日 発行 編集発行人 石母田 健
購読料 6ヵ月 14,300円(税込)
振替番号 東京4-71739
発行所 株式会社 日刊経済通信社
本社/東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋府川ビル9階
☎03(5847)6611(代) FAX 03(5847)6600
名古屋支局☎052(253)6924 大阪支局☎06(6353)1791
<http://www.nikkankeizai.co.jp/>

酒類食品'24年1~9月生産(販売)速報(日刊経済通信社調)

小売業は、すべてプラス

酒類食品2024年1~9月生産(販売)速報
(日刊経済通信社調)

分類	実数(単位)	前年比(%)
小売	百貨店	109.0
	食品スーパー	103.0
	CVS	101.3
	Dgs	108.5
	小売業	102.8
酒類	ビール	1億3,000万箱 106.0
	発泡酒(旧新ジャンル)	4,100万箱 107.0
	新ジャンル	6,700万箱 74.0
	ビール類合計	2億3,800万箱 95.0
	清酒	96.0
	合成清酒	97.5
	連続式蒸留焼酎	97.0
	単式蒸留焼酎	95.0
	みりん	102.0
	果実酒	5万5,800kl 90.0
	ウイスキー	11万8,500kl 100.9
	リキュール	155万1,100kl 100.0
	スピリッツ	75万3,800kl 111.0
牛乳・乳製品	飲用牛乳	99.0
	乳飲料	96.6
	発酵乳	100.9
	チーズ	110,000トン 98.5
	バター	54,200トン 103.6
	調製粉乳	92.7
	アイスクリーム	113,000kl 110.0
缶詰	マグロ類缶	97.0
	ミカン缶(国産)	103.0
	スイートコーン缶	92.0
清涼飲料	食肉・調理缶	99.0
	清涼飲料合計	100.0
	コーヒー飲料	96.0
	緑茶飲料	101.0
	無糖茶飲料	103.0
	ミネラルウォーター	107.0
炭酸飲料	101.0	
スポーツドリンク	98.0	

この数字は本誌各業種の担当記者による生産(販売)速報値を集計したもの(推計含む)。

別表の通り対象63業種のうち、「前年実績並みからプラス」とする「100%超え」の業種は35(23年は27。24年の全体比率は55.6%)。

「微減」レベルの業種(97~99%)が16業種(23年は19業種)、80%台(1業種)から90%台前半(10業種)の結果となった。

2ヶタ伸長の大幅プラスは、トマト加工品112.5%、スピリッツ(ジンほか)111.0%、アイスクリーム110.0%の3

つだった。

業種別では、小売業全体は102.8%。うるう年効果と、毎月2~3%の伸びと堅調。飲食料品小売も同様に推移。百貨店は109%、インバウンドが過去最高水準での推移で下支え。食品スーパーは103%と値上げ商品浸透で堅調。CVSは101.3%。客数微増、客単価ほぼ前年並みでの推移。

ドラッグストアは108.5%と高い伸び。食品

酒類はビール類合計(金額)で97.8%(※前年)とビール、発泡酒が好調もトータルでマイナス。前年値上げ仮需、10月からの酒税増増減税の影響などで実態はつかみにくい。

ビールは106%と業務用の好調、家庭用新商品が寄与。発泡酒は流通大手の

(2面に続く)

2024年1~9月の酒類食品流通業界の生産(販売)速報値(推計含む)がまとまった。

この第3四半期では、小売業それぞれの業態がすべてプラスで推移。また、観測史上空前とも言われた猛暑・酷暑が夏物商品の数字を押し上げたほか、地震や豪雨など天災もあり、備蓄製品にも動きがみられた。

また様々な業種・品目での原料資材・物流費・円安などを背景とした価格改定・値上げが行われた(予定も含む)業種も多い。

(※詳細は姉妹誌「酒類食品統計月報24年11月号」参照)。

主な内容

24年1~9月生産速報	12面
1~9月の缶ビール	7面
キリン工場操業50周年	3面
サントリーBN初荷便	9面

キリン「iMUSE」	3面
マルサ 高付加価値のアルコール機能性食品	4面
オタフク 近況報告会	5面
スチール出雲市でCPR	13面
フジ24年度ユーザー会	15面
◎原料商品情報	8面

今日は何になるのかな、
と考え続けて70年。

